

護岸整備の問題と改善案



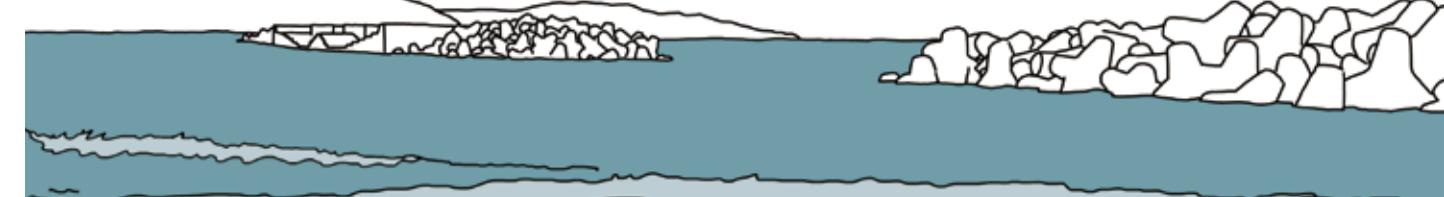
01. 現在の護岸整備

現在、対象地の海岸で行われている護岸は、離岸堤を用いた護岸である。離岸堤は波や養浜において非常に効果的であるが、いくつかの問題点がよく指摘される。

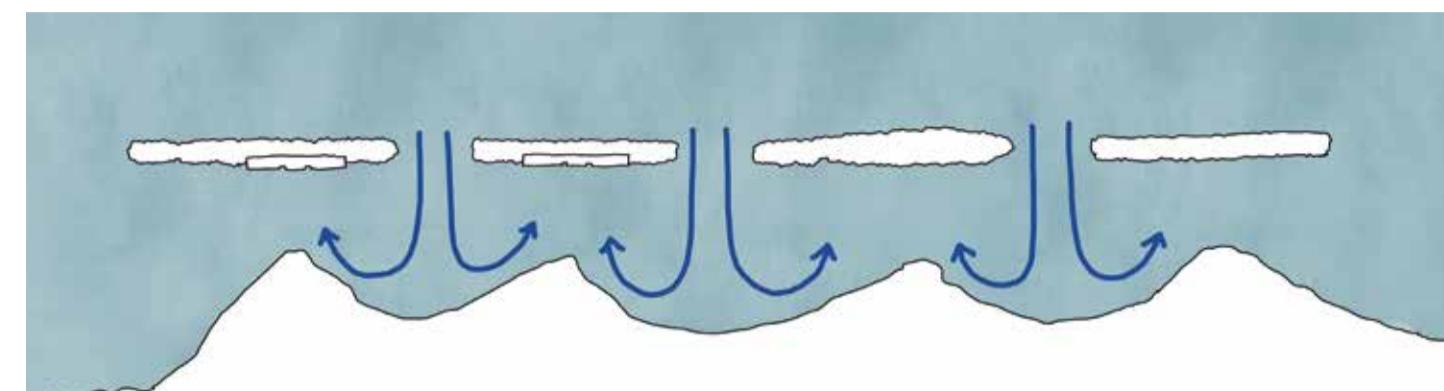
一つは景観上の問題、二つ目に安全面での問題である。



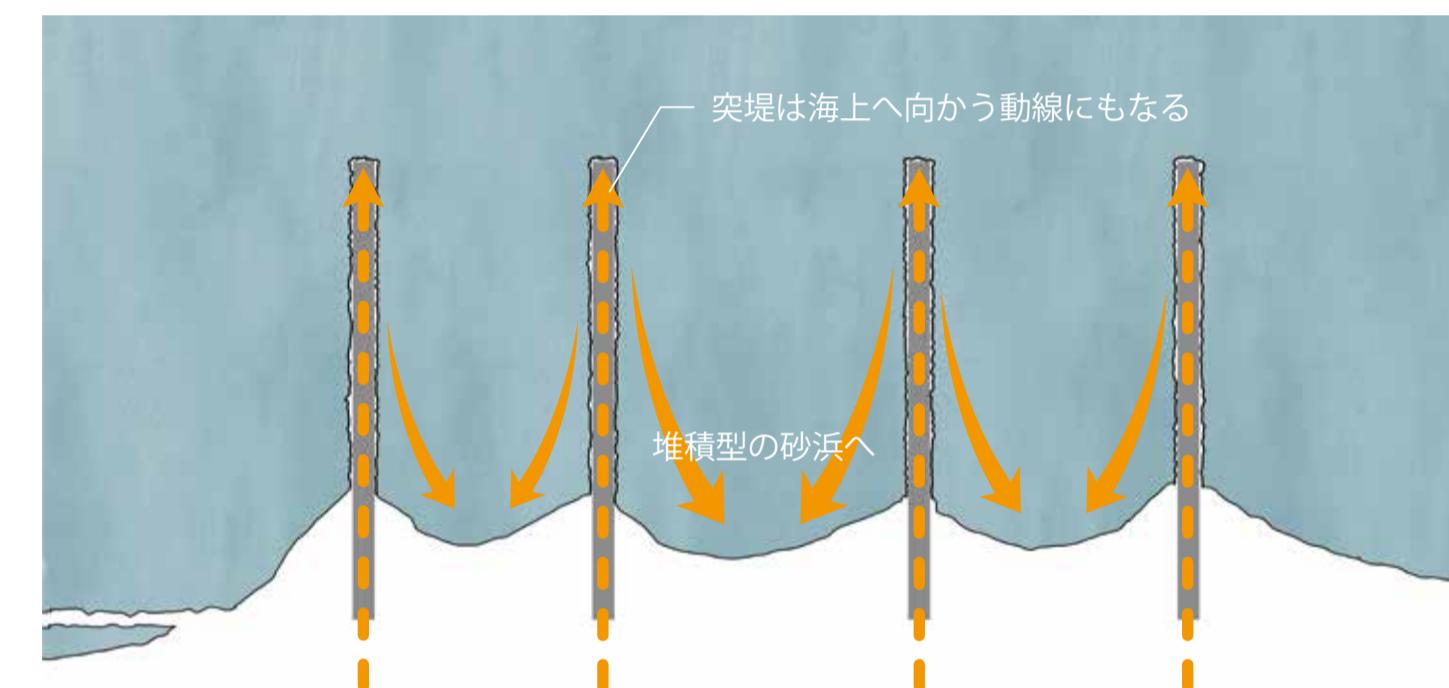
「水平線を遮る」



「離岸流を生み出す」

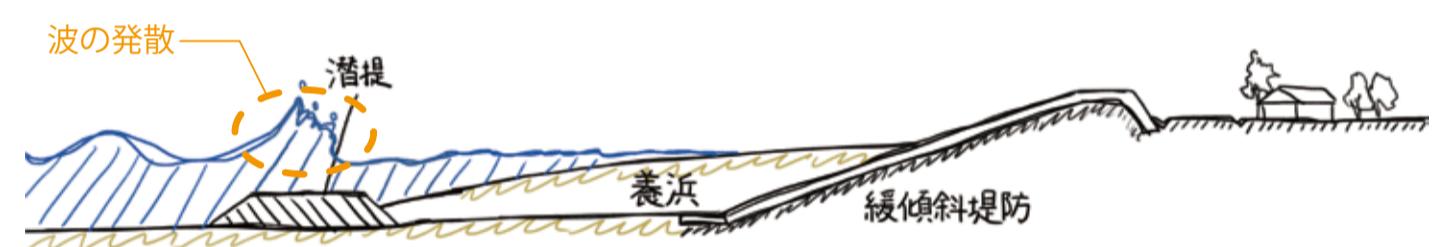


02. 「突堤」と「潜堤」



養浜の効果がある護岸の種類として、離岸堤意外に、「突堤」と「潜堤」がある。

特徴として、突堤は海岸線に対して垂直に線形の構造物をつくる。潜堤は水上からは見えない護岸である。



護岸整備の計画プロセス

STEP .01 突堤の配置

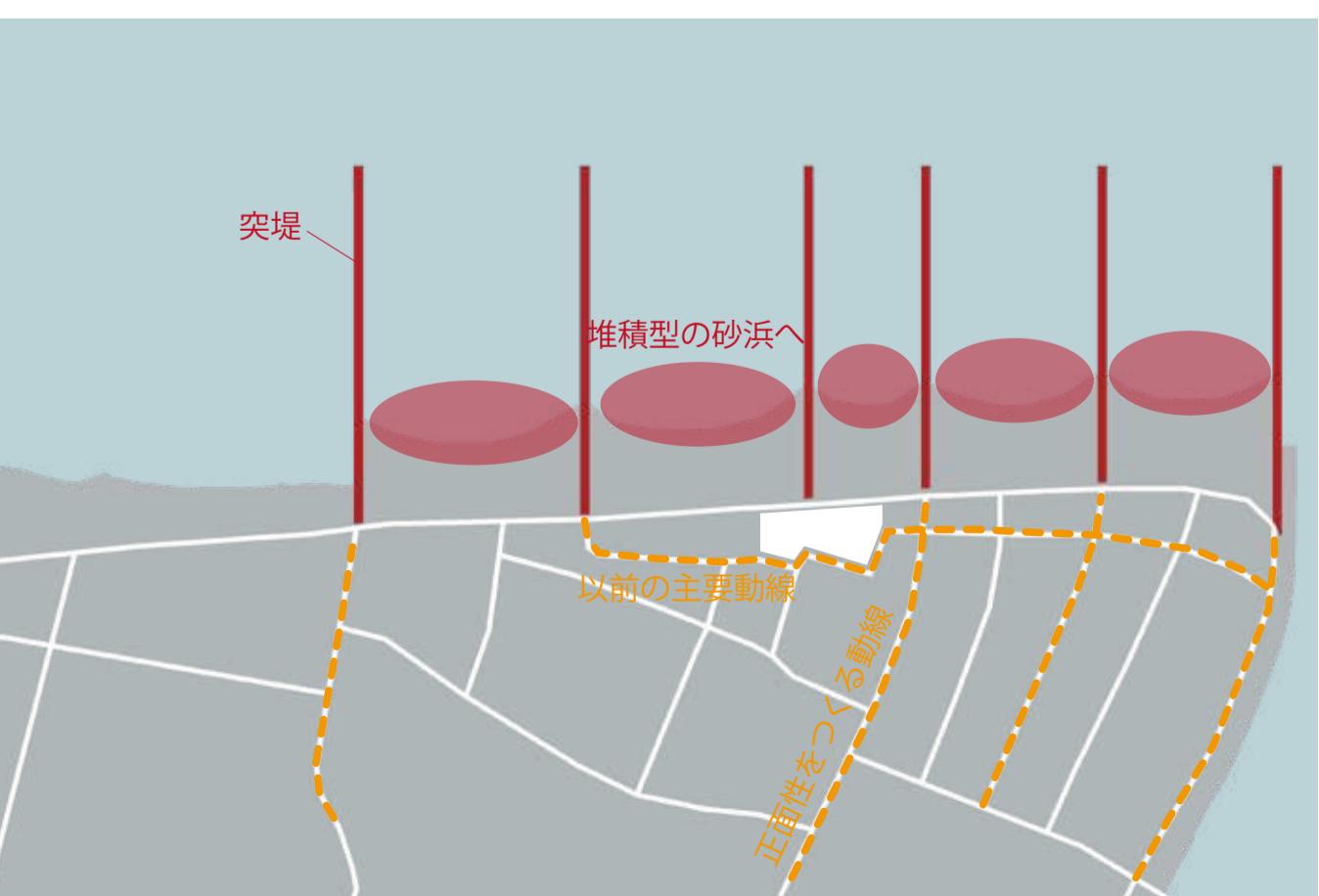
STEP .02 潜堤の配置

STEP .03 潜堤の調整

STEP .04 突堤の調整

町の動線を海へ導く

まずは、突堤の配置のスタディを行う。今回はかつての港町において、重要であり、海への正面性を生み出していた動線に注目し、その動線を海へ向かって延長するように配置した。



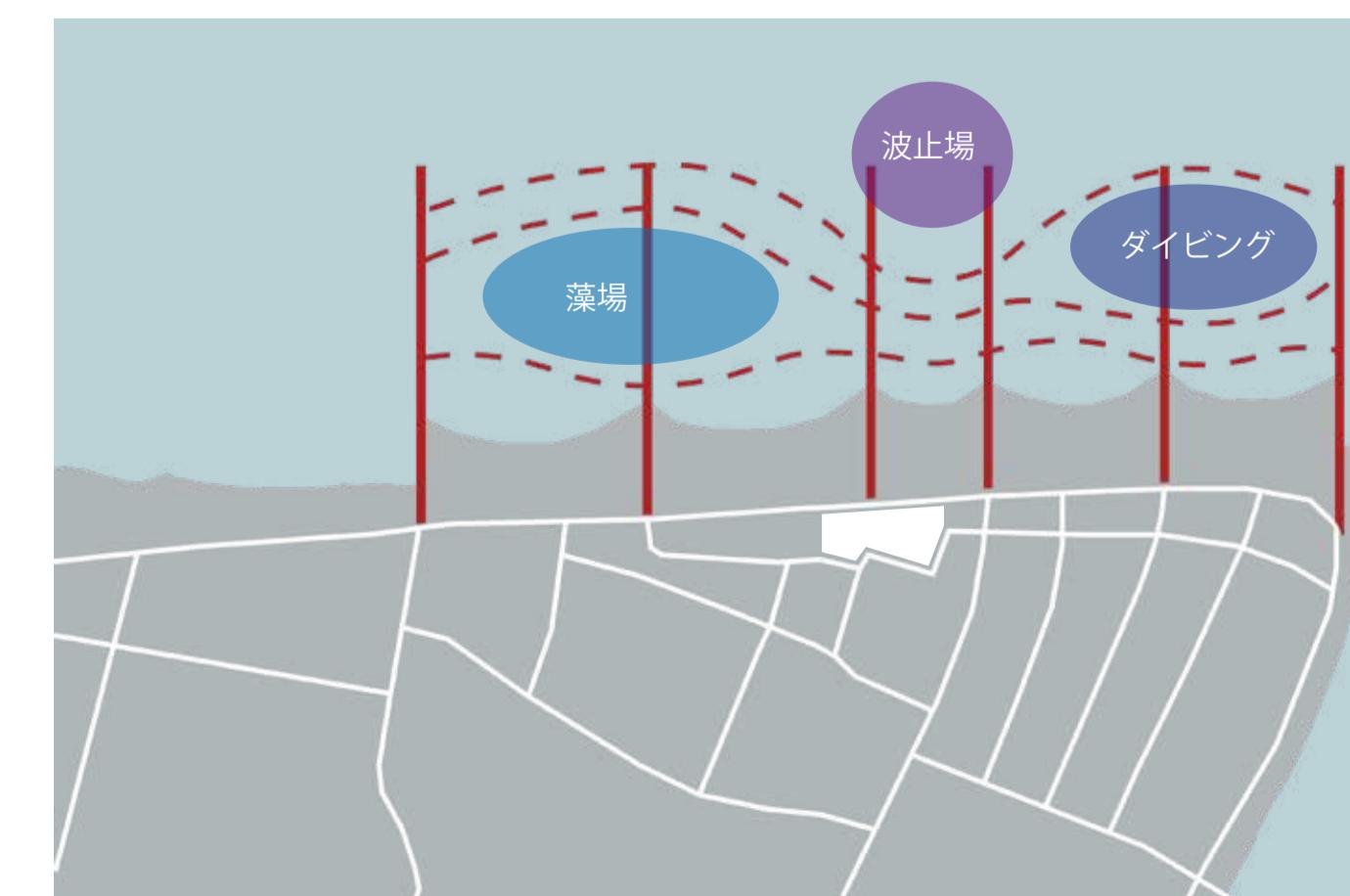
多層型の護岸で波をより穏やかに

潜堤の配置計画では、潜堤のを3層のレイヤーに分けて配置することで従来の形より、より岸に近い海域にないほど、波が穏やかで安全になる。これにより突堤による離岸流の問題を解決する。



海に活動の場を生み出す

各潜堤の間では、異なる水深の海中環境が生まれる。それを活かして海上、または海中での活動の場を生み出すために、潜堤のラインを調節する。



町の機能と連動させる。

町にも、様々な施設やエリアが存在する。それに対応するように、突堤の長さや形状を調整することで、町と海を一体とした、直江津の開発計画としてデザインすることができる。

